

新 聞

Sr. M. Kol... Caixa, 375 S. Paulo... Telephone 2-3926

南京政府首腦部

親日聲明を發す

歐米派、珍らしくも沈黙

【南京三十一日】昨夜蔣氏議長... 蔣氏は本日對日態度につき國民... 歐米派、珍らしくも沈黙... 蔣氏は本日對日態度を國民... 蔣氏は本日對日態度を國民...

挑戰的言辭は

慎んで貰ひたい

米政府、聲明を發表

【ワシントン發】アメリカ政府... 米政府、聲明を發表... 米政府、聲明を發表... 米政府、聲明を發表...

日本を目標の

英米の協定論

【ニューヨーク發】アメリカ外... 英米の協定論... 英米の協定論... 英米の協定論...

珈琲市場攪れ

取引全く休む

原因は珈琲の買上中止

【ロンドン發】珈琲取引所は... 珈琲市場攪れ... 珈琲市場攪れ... 珈琲市場攪れ...

北鐵譲渡決定

書記草

【東京一日】北鐵... 北鐵譲渡決定... 北鐵譲渡決定... 北鐵譲渡決定...

日本國民は

好戰的でない

【ワシントン發】不戰條約... 好戰的でない... 好戰的でない... 好戰的でない...

政友會の緊急動議

政局の動きを左右せん

【東京一日】政友會は緊急動議... 政友會の緊急動議... 政友會の緊急動議... 政友會の緊急動議...

猶太系獨乙人

大率南米移住か

【ロンドン三十一日】ナチス... 猶太系獨乙人... 猶太系獨乙人... 猶太系獨乙人...



遊巡伯南

（ボルトアレグレ）の町も... 遊巡伯南... 遊巡伯南... 遊巡伯南...

CASA TOZAN MIZUKAMI & CIA. COMMISSARIOS... 珈琲コミスサリオ... カーザ東山... 東山銀行部

BANCO ESPECIE DE YOKOHAMA, LTD. (THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.)... 郷里送金... 法律事務所... 呼寄

時話の題

政友會お家騒動

屋臺骨まで危い!

その内幕をあはく

臨時議会の幕を開けられやうといふトク場に政友會から投げつけられた爆弾... 政友會の歴史を知つてお家騒動

田中の總裁就任後やがて大養新系とスクラムを組んでマンマは秋田、濱田、大口等家の子弟... 政界通路

船中日記



観光團の人々は多くは十年、二十一年の在伯苦闘者が多いので... 清水周一

出帆と同時に私は動かぬかならない、夜八時食後を利用して人員點呼し日伯新聞を配布する... 船中日記

△強硬派 總裁系の一部、舊派系、山内系、鳩山系... 夏陣に つく政友會の

かくて齋藤内閣内閣内閣内閣の出現となつたが、岡田大将の組閣の不振は政友會の不振の一變と見られてゐる

正午出帆雨の中の中を出る人もあるが私は再び水上警察に出頭し許可を受けて子供の乗船切符を得る

富田家 料理 富美の家 聖市

Photographia Allemã Rua Duque de Caxias, 8

立花満男ニッポカフエランジヤ

M. NISHIMURA Caixa Postal, T. = Jatahy Paraná

棉作雑穀好適地

醬油 醸造所

廣島屋旅館

西田盛

西村組

謹告

GYMNASIO YPIRANGA Rua Vergueiro, 360 e Domingos de Moraes, 76

ジナジオリピランガ 寄宿、半寄宿及通學制、一九三〇年創立

「一石」先物を買ふ

政黨異變對策と窮境打開

突如秋田議長が政友會を脱黨した事によりかねて統制を憂慮されてきた政友會は少なからぬ衝動を受け、殊に床次系を中心とする新黨運動の噂が立ち登つてくる時、政界各方面の耳目はそそり立ち、秋田議長が議長職を離れて政友會を脱黨した動機は、その何處にあるか、又その影響はどうか、政友會の内情が複雑を極め、政界の現状が微妙であるだけに注目を惹いてゐる。

秋田

氏は舊革新系の一員として、人前大義断行時代久原氏等と協力内閣運動をやつて大義断行と疎離し、又大義断行の出現では役人漏れになつて今日に至つたが、さきの岡田内閣の成立では入閣の選に漏れ、久原系の反政府態度で久原系とも離れ、床次系とも多少行違ひが出来た、といつて望月前田氏等の舊政友系とは党内で一番仲がよかつた、けれども元來が舊政友系でない秋田氏としてはそれだけ党内の立場が苦しかつた譯だ、自己の窮境打開これが秋田氏今回の脱黨の個人的心情の一つの因子であらう。

この肩に擔ふ 商賣新道の開拓

「經濟使節」平生氏の氣焔

ブラジルへの經濟使節として日本商會所及拓務省から選ばれて来る三月下旬に伯州に海外出張組理事長、川崎造船所長長生三郎氏をめぐり、眞實なブラジルの對伯關係が流布されてゐるが、當の平生氏は日本商業俱樂部における「一ツラフ」の會合に出席し左の如く語つた。

二百七十ヶ村に まづ診療所を

内務省衛生局では二百七十ヶ村に建設することになつてゐるので各府縣を通じて右の村に建設の申請をなすしめ、あるのでその對とすべく、第一期は凶作に悩む東北地方を主に建設することになつてゐる。

「だが」一説には秋田氏が寄せて「松岡洋右氏のやうな立場にならなければならぬ」といふ言葉と重ねて同氏が軍部方面と往復を重ねてゐた點から反政敵陣營に飛び込むのではなからうかとの見方もあるやうだが、これは秋田氏の複雑性を等閑視した見方である、そ

米粒に守り神

陸軍省へ献納

細字家の本因坊といつた青年が第一線に立つ陸軍兵士全部に米粒守本尊を贈るべく精進、去年一杯かゝつて一万一千個の米粒「天照大神」の文字を書き上げたのでこれを陸軍省に出頭し、その青年は田中清一郎(少将)といふ名で二センチ(六分六厘)平方に百人一首の繪と歌を全部収めるといふ腕前を持つてゐる。

木造船で 太平洋乗切

千葉縣白旗町の長尾牛松(三四)君は同僚青年五名と共に南洋のルネオ島、バタビク、港(木村)運搬の計畫を立て木造船建造に古來日本の稱である三重縣大湊の市川造船所で大日本丸號五十八噸を建造中であつたが、今回進水式をすまいと、渡航すべく十二日宇治山田港を通じて渡航し、提出した。

粹な裁きで 國際愛實を結ぶ

英人歌姫と外交官補の結婚 今限り外務省許可

華かなロンドン日本大使館の外渡開丸で太平洋の波に楽しい旅交官補を振り出しにスコットランドの歌姫、アン・グリーン嬢との國際愛を唱はれ、非常時日本外交のきつぱから外國婦人の結婚を許され、昨年八月賜暇歸朝の名目で日本に呼び返され、戀を遂げるか、外交官補を棄てるかの板挟みに悩み抜いた勝部俊男君は外務省の粹な裁きで今限り限り、アン嬢との結婚を承認された。

日滿速達航空便開設

陽春四月滿洲國皇帝の御賜暇歸朝を記念し、日滿速達航空便を開設し、四月五日東京に即日配達する。大飛躍をなさんと通信は来る。四月五日東京に即日配達する。大飛躍をなさんと通信は来る。四月五日東京に即日配達する。大飛躍をなさんと通信は来る。

滿洲國大博覽會

「東京二十九日」滿洲國大博覽會は、建設三年の博覽會の實情を世界に紹介し併せて將來の開發に資せんがため、八月五日から九月二十五日まで東京において大博覽會開催の計畫をたて、日本へも参加出品方を正式申込んで来た。

Pó Estomacal "TAKA"

慢性胃腸病にタカ胃散

胃腸病程人知れず苦しむ病氣はない。胃腸病程人知れず苦しむ病氣はない。胃腸病程人知れず苦しむ病氣はない。胃腸病程人知れず苦しむ病氣はない。胃腸病程人知れず苦しむ病氣はない。

イ 神の如き 卓効に難 病者續々 全快!

研究...二十年 愛用者三十餘萬 特許... 効果... 世界的

NOISHIKI & CIA. 450円

太陽ホテル

ソコカバナ驛左へ三百米

電話二二六八八

AUTO-OMNIBUS

U.T.I.L.サントス行

乗合自動車切符發賣所

電話二二六八八

和せんべい

最も經濟的で滋養に富む

山本製菓所

大河内藥化學研究所

自己の信頼の置ける薬を!!

タカ胃散の適應症

奥村商店

東洋旅館

うめの家

本年度外國移民 入國割當數決定

（リオ五日）労働大臣の任命に
なる移民法起草委員会においては
内閣の各移民の定着数の確
定せぬため、本年外移移民
許容数を如何に決定すべきに迷
つてゐたが、本日の會議において、
移民局長の提出した定着割當數を
字と見做しこれによつて一九三五年
度の各移民入國割當數を算出する
ことに決定
を見た、詳細後報

聖市博物館への 入場者は？

（リオ五日）労働大臣の任命に
なる移民法起草委員会においては
内閣の各移民の定着数の確
定せぬため、本年外移移民
許容数を如何に決定すべきに迷
つてゐたが、本日の會議において、
移民局長の提出した定着割當數を
字と見做しこれによつて一九三五年
度の各移民入國割當數を算出する
ことに決定
を見た、詳細後報

聖市博物館への 入場者は？

（リオ五日）労働大臣の任命に
なる移民法起草委員会においては
内閣の各移民の定着数の確
定せぬため、本年外移移民
許容数を如何に決定すべきに迷
つてゐたが、本日の會議において、
移民局長の提出した定着割當數を
字と見做しこれによつて一九三五年
度の各移民入國割當數を算出する
ことに決定
を見た、詳細後報

明朗・朝倉君 棒高に在伯邦人新記録

（リオ五日）市内ゲルマニア
俱樂部で催された對南米諸國大
會練習試合に我が邦人朝倉君と
聖西聯合の朝倉君が同クラブ員
として出場、棒高跳でカサブ
ワルテレーデル君等の聖西軍
と張り合ひ、遂に三米五五の
在伯邦人新記録を出して快勝し
た。

世界棉花會議 米、主要生産國を招請

（華府五日）米政府は近く華府を
に世界棉花會議を開催すること
に決し、英政府に對し印度洋に
行の滯米中ラジラ棉花問題が
領土代表派遺方正式招請す。米
國側から必ず切り出されるで
ると共にラジラに對しても同
米中のコスト減相を通じて同様
に招請した。

第二世學生 母國見學團

（リオ五日）労働大臣の任命に
なる移民法起草委員会においては
内閣の各移民の定着数の確
定せぬため、本年外移移民
許容数を如何に決定すべきに迷
つてゐたが、本日の會議において、
移民局長の提出した定着割當數を
字と見做しこれによつて一九三五年
度の各移民入國割當數を算出する
ことに決定
を見た、詳細後報

各地總會一束

（リオ五日）労働大臣の任命に
なる移民法起草委員会においては
内閣の各移民の定着数の確
定せぬため、本年外移移民
許容数を如何に決定すべきに迷
つてゐたが、本日の會議において、
移民局長の提出した定着割當數を
字と見做しこれによつて一九三五年
度の各移民入國割當數を算出する
ことに決定
を見た、詳細後報

（リオ五日）労働大臣の任命に
なる移民法起草委員会においては
内閣の各移民の定着数の確
定せぬため、本年外移移民
許容数を如何に決定すべきに迷
つてゐたが、本日の會議において、
移民局長の提出した定着割當數を
字と見做しこれによつて一九三五年
度の各移民入國割當數を算出する
ことに決定
を見た、詳細後報

（リオ五日）労働大臣の任命に
なる移民法起草委員会においては
内閣の各移民の定着数の確
定せぬため、本年外移移民
許容数を如何に決定すべきに迷
つてゐたが、本日の會議において、
移民局長の提出した定着割當數を
字と見做しこれによつて一九三五年
度の各移民入國割當數を算出する
ことに決定
を見た、詳細後報

種別	等級	買	賣
カブ	四級品	1,700	1,600
アブラ	四級品	1,700	1,600
...

急告 来る二月十日（日）正午
二時より聖市市庁ビルに於
て當支部の新年懇親會を催す
に當り、是日出席を希望する
方は、勿論會員外の同郷人も振
舞を希望す。

少年用入 五、六歳の少年四、五名至急
希望者は本社へ御來談の
こと

賣家廣告 煉瓦、開口九米、奥行
十四米、別
一、店の外ワルト四ヶ所、別
に四米、五米のクジヤあり
一、店にはパコ、商品棚等
一切附屬す
一、場所、ビグキ、ニツボラ
ンヂヤ町等場所
一、敷地面積、拾六米、四拾
米、二、目下外人商人營業せり然し
賣却次第出ます

炊事婦任用 コジニエイル求む、當
方夫婦者、高給支拂ふ
Rua Par. 21

子守女任用 高給支拂ふ
Avaldo
Rua Marquez Abrantes, 31
Balneario Tel. 9-2181

CASA BOCCHINI
Praça da República, 7 - Telephone 4 4900

好機

宣傳のためラ
ヂオ五球式擴
音器付八百五
十ミルのもの
五百四十ミル
電氣冷蔵庫三
コント六百の
もの二コント
五百特價提供
ラヂオ工場完
備

種鯉分讓 豫て邦人間に期待せられし當年鯉安價に提供
從來より一打七十釘、百釘迄に取引せられつ
つあるも今回特に日本人に限り五十釘より八
十釘迄に提供致します

Shanghai em S. Paulo
聖市の上海
聖市唯一の最もシツクな、そして最
も興味深いサロン
毎晩の勝利者に
八百ミル宛の割戻配當有り
是非共シヤンハイ・エン・サンパウロ
の面白い撞球技で貴君の好運を
御試し下さい

Casa Alemã
Schädlich Oberl & C.
R. Direita, 16-18

カーザアレマン
夏物特賣
聖市名物
カーザ・アレマンの
大特賣場へ
是非御越し下さい
この好機を逸せずに
特別廉價大奉仕

巴拉ナ州海岸セラ・ネグラ
貳万アルケレス（州政府拂下地）
交通至便、巴拉ナガ港より海上四十キロ、セラ・ネグラ
河を過つて植民地内、棧橋に發動機船橋となる水運
に依る搬出は諸掛を節約す

ウニオン植民會社
聖市事務所 オンゼ・デ・アゴ
スト街六四六階卅一號室
中西 周 甫
Cia. União Colonial Ltda.
Caixa Postal 2079 - S. Paulo

Posto de Gazolina Standard

運轉手諸兄へ告ぐ
ガゾリンは安價、良質の
スタンダード印
今般小生儀皆様方の永年御援助の元
にクワタ驛にアゼンシア・ポストを
開業致しました何とぞ御引立の程を
願上ます

營業種目
ガゾリン及びワニ印石油、モートル用重油、殺
虫用フット一式、圓滑用コート、光澤用トリ
ン並に自動車及びトラック用ベツサ一式修理設
備完成

マノエール・ロンバ
平良眞吉
ソロカバナ線クワタ驛 郵箱十一

求堅實農業者

ブタンタン研究所は左記の條件に依り邦
人農業者家族を募集します、但し差當り
四家族希望者は至急本會宛出願御申出下
さい

一、場所
サンパウロ市郊外ブタンタン研究所内研究所々
有地
一、面積
二〇餘アルケレス、地味肥沃既に排水作業を
行ひたる土地
一、住宅及衛生設備
研究所より家庭提供（但しバラック）飲用水湧
水あり、洗濯用流水あり、其他醫療施設萬端整
ふ

一、耕作條件
各家族へ四アルケレスの農耕地を無料貸與し
其の生産物の三分の二を生産者の所得とし、三
分の一を研究所側の所得とす、尙施肥用として
研究所より堆肥、厩肥の様な特殊肥料の配給を
受けることができる

一九三五年二月四日
在ブラジル日本人同仁會
Dolinkai
Rua Galvão Bueno, 78
Caixa Postal 2076 - S. Paulo

Novos planos de venda - 1935
CIDADE LAVINIA
(VARIANTE ARACATUBA-JUPIÁ)
70\$ de entrada e 20 prestações de 20\$
Lotes juntos à Estação

一、Lotes 500m.²
Entrada 70\$
Inclui 3 ou 4 para a Santa Casa
20 prestações de 20\$000

二、Lotes 500m.²
Entrada 130\$
Inclui 3 ou 4 para a Santa Casa
20 prestações de 37\$
Quadras: 11, 12, 13

三、Lotes 500m.²
Entrada 207\$
Inclui 3 ou 4 para a Santa Casa
20 prestações de 59\$
Quadras: 2 e 6

Quadras: 3, 4, 5, 7,
8, 9, 10, 14, 15, 34,
35, U, N, O, T, X, V,
W, S.

Escritório Central Avenida Paulista, 64 - SÃO PAULO
CARLO VALLI e FUGIMARA NIZO - Fax. S. Raphael - Caixa 177 D - ARACATUBA
EID ABEID - Rua 7 de Setembro, 57 - LINS

シダーデ・ラビニャ本年度分讓地

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Nipponico de maior circulação no Brasil

Anno XXI

São Paulo - Quarta-feira, 6 de Fevereiro de 1935

Num. 921

NIPPAK SHIMBUN

Director-Proprietario:
SACK MIURA

Redacção, Administração e Oficinas
Rua da Liberdade, 144-A e 146
Caixa Postal, 375
Telephone 2-3926

Endereço Telegrafico: "Nippak"
SÃO PAULO - Brasil

ASSIGNATURAS
Para o Brasil

Por anno 30\$000
Por semestre 16\$000
Numero avulso \$500

Para o Exterior

Por anno 60\$000

Anuncios
Temos á disposição dos interessados uma tabela completa de preços para anuncios nesta folha. Telephone 2-3926

Noticias e telegrammas do Nippon

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos jornaes)

As relações Italo-Nipponicas

Declarações do embaixador em Roma

O Jornal italiano "A Tribuna" publicou interessantes declarações feitas pelo embaixador nipponico em Roma, sr. Sugimura, acerca das relações entre a Italia e o Nippon, na Africa e no Extremo Oriente.

A proposito da pretensa presença de officiaes japonezes na Ethiopia, o sr. Sugimura disse: "Posso desmentir do modo mais formal essa noticia que não repousa em nenhum fundamento. Não ha instructores enviados por nós á Ethiopia".

Com respeito á penetração economica japonesa na Ethiopia, o embaixador nipponico esclareceu: "No momento em que cada nação estrangeira fechava ás nossas mercadorias as portas, e que nos encontramos com grandes quantidades de artigos recusados, certos intermediarios, na maior parte judeus, vieram procurar-nos em Kobe (quero frisar este ponto) e fizeram compras que tiveram como destino final a Abyssinia.

Hoje, igualmente, os nossos productos chegam a Addis Abeba, via Djibuti, por intermedio desses negociadores e não por importações directas".

O sr. Sugimura desmentiu igualmente os boatos sobre o pretenso casamento de uma princeza japonesa com um príncipe abyssinio e concluiu que não havia nenhum conflicto de interesse na Ethiopia entre os dois paizes.

Quanto ao Extremo Oriente, o sr. Sugimura frizou: "Estou convencido de que a Italia poderá desenvolver a sua actividade no Extremo Oriente, sem collidir com o Japão. Ha um mercado imenso a explorar, mas para atingir esse fim é preciso que as populações — falo especialmente da China — gozem de inteira tranquillidade politica. Todos os esforços do Japão tendem para esses resultados. Enquanto houver paz, a organização commercial será satisfactoria para todos.

O novo chefe da missão diplomatica japonesa notou em seguida que o Mandchukoku possuía actualmente uma administração completa e que nestas condições a questão do reconhecimento do Estado Mandchú não preocupava o governo de Tokio. Citou a este proposito que uma importante missão britannica e fraceza adquirira "in loco" a convicção da existencia de possibilidades

commerciaes excepcionaes com o Maudchu-Koku,

No concernente ás relações commerciaes directas entre os dois paizes, o sr. Sugimura declarou que submetera ao governo de Roma uma lista dos productos que o Japão podia e desejava exportar. O Nippon desejaria por sua vez importar certos productos italianos em reciprocidade, e não havia por exemplo motivo para que se não desenvolvesse a exportação de vinhos italianos para os mercados japonezes.

Augmenta consideravelmente a produção de seda artificial

A produção de seda artificial tem augmentado, em diversos paizes, consideravelmente, exceptuando-se os Estados Unidos, onde diminuíram muito. Entre os paizes productores, o Nippon figura em segundo lugar em 1934 e este anno, possivelmente, atingirá 210.000.000 libras peso, que o tornarão o maior produtor do mundo.

Produção da seda artificial em 1934, em libras-peso:

Estados Unidos	187.670.000
Nippon	150.000.000
Italia	100.680.000
Inglaterra	90.000.000
Allemanha	89.770.000
França	74.045.000

Politica Externa

Resumo e trechos do discurso pronunciado pelo chanceler Koki Hirota

Do extenso e completo discurso pronunciado pelo chanceler nipponico, sr. Koki Hirota, na sessão extraordinaria da Dieta, em 20 de Janeiro, destacamos os seguintes principaes trechos:

«Agora que a obra da edificação dos fundamentos nacionaes do Mandchú Koku está terminada, os progressos futuros deste Estado dependerão largamente — acredito — da collaboração irrestricta do seu povo com o povo nipponico. Particularmente no campo de acção economica temos o direito de esperar que possamos satisfazer mutuamente as nossas necessidades e assim nos proporcionar recíprocamente o bem estar a prosperidade.

Nessas condições, não pôde senão lisongear-nos profundamente a noticia da proxima visita do imperador do Mandchú Koku ao imperador do Nippon, em Tokio, na proxima primavera. Esta visita não deixará de estreitar ainda mais os vinculos de amizade existente entre as duas casas imperiaes. E' certamente uma honra e um privilegio raro para toda a nação nipponica ter a occasião de acolher o imperador do Mandchú Koku.

O governo nipponico presta particular attenção á questão do desarmamento naval. Tive oportunidade, na ultima sessão, de falar das conversações navaes preliminares, trocadas em Londres, entre o Nippon, a Grã Bretanha e os Estados Unidos.

A politica fundamental do governo nipponico nas negociações actuaes é, como então expliquei em detalhe, a de promover a redução substancial dos armamentos e abolir totalmente ou pelo menos effectuar uma limitação energica dos armamentos offensivos, afim de libertar cada potencia das ameaças das outras e de fazer de sorte que seja effectivamente impossivel a uma potencia ameaçar a outra.

Após fazer longas e detalhadas allusões á questão naval internacional e, particularmente, á posição da marinha nipponica ante os acontecimentos que se travaram em Londres, acrescentou o chanceler Hirota:

«Como o Tratado de Washington, de 1922, se tornou incompativel com a nossa politica fundamental, o nosso governo, a 29 de dezembro ultimo, notificou ao governo dos Estados Unidos a sua intenção de denunciar o referido tratado, de accordo com as clausulas previstas. Consequentemente, o Tratado de Washington deixará de vigorar a partir do ultimo dia de dezembro de 1936.

Esta nossa attitude não deve ser considerada como tendo objectivo de nos levar a embarcar numa politica de accrescimento dos nossos armamentos, o que está longe do nosso pensamento. Esperamos, ao contrario, que seja concluido outro pacto destinado a substituir o Tratado de Washington, pacto baseado em nova formula, que concorde verdadeiramente com o espirito de desarmamento.

As conversações preliminares que déram ás potencias interessadas a occasião de discutir completamente as questões em jogo e de mais ou menos fazer conhecidos os seus respectivos pontos de vista, foram adiadas a 20 de dezembro ultimo. Pareceu então opportuno collocar os delegados das potencias interessadas em condição de consultarem os seus governos sobre os resultados das conversações. Ficou decidido, entretanto, que seria mantido contacto estreito entre as potencias durante o periodo de intercessão e que as negociações seriam reatadas, desde que surgisse o momento propicio.

Esperamos sinceramente e consagraremos todos os nossos esforços para o proximo reatamento destas negociações com o fito de chegar a novo accordo equitativo, que contenha os principios de não-agressão e não-ameaça, bem como que permita a redução actual e substancial dos armamentos, assim fazendo proseguir a causa da paz no mundo.

Encerrando o seu longo e completo discurso, o chanceler Hirota fez ver que o governo nipponico elabora projectos destinados a acelerar o desenvolvimento pacifico das relações nipponico-sovieticas, assim como de toda a Asia Oriental.

Declara, textualmente, o chanceler nipponico: «A situação politica da China é quasi calma ha bastante tempo. A' parte combates entre os exercitos comunistas e as tropas governamentais, a ausencia da guerra civil na China, no momento actual, é symptoma dos mais animadores, não só para a China mesma, como tambem para a preservação da paz na Asia Oriental, que é de interesse tão vital para o Nippon.

Não se pôde negar, todavia, mesmo á simples luz da historia, que a situação politica da China comporta ainda muitas e sérias eventualidades. Se, felizmente, o grosso das forças do exercito vermelho parece ter sido repellido dos territorios de Kiangsi e Fuien, pelo corpo expedicionario enviado pelo governo algumas das suas unidades estariam estabelecendo ligação com os seus aliados de Kulecho e Echwan e recuando para oeste, em regiões distantes.

Em vista destes acontecimentos a que accrescem boatos de sovetização de Sinking, o governo nipponico é obrigado a vigiar as actividades do partido e dos exercitos dos comunistas da China.

Deve lastimar-se novamente que a agitação anti-nipponica não tenha ainda podido ser completamente sufocada em certas localidades chinesas. O Nippon attribue maxima importancia á sua amizade com os outros Estados da Asia Oriental, e conta com a sua participação para assumir as graves responsabilidades de manutenção da paz e da ordem nesta parte do mundo.

Completamente, é com fervor que exprimo a esperança de ver a China não somente recobrar dentro em pouco a sua estabilidade como tambem por comprehender a verdadeira situação da Asia Oriental e se esforçar por corresponder á aspirações generosas do nosso paiz.»

Falleceu um ex-ministro Nipponico

Noticias provenientes de Tokio annunciam que falleceu naquella capital, aos 81 annos de idade, o sr. Sadanobe Tui, antigo ministro das Finanças.

Reconhecido o consul e vice consul do Japão em São Paulo

Foi reconhecido na qualidade de consul geral do Nippon em São Paulo, o sr. Kozo Itigé e na de vice-consul, sr. Tomiya Koseki.

Os tecidos nipponicos concorrem com os norte-americanos

O apparecimento, em New York, de tecidos de algodão nipponico á preços muito inferiores aos dos fabricantes norte-americanos tem movimentado os centros commerciaes dos Estados Unidos.

Informa-se, tambem, que a qualidade do tecido nipponico, apesar de pouco inferior, tem apparencia e durabilidade comprovada.

Um programma de radio para a colonia japoneza

A Radio Diffusora São Paulo — P R F 3 — está apresentando, todas as terças e quintas feiras, ás 11,30 horas, um programma de gravações modernas nipponicas.

A Radio Diffusora São Paulo irradia na frequencia de 895 Kiloyelos e na onda de 336,5 metros.

Os discos transmittidos nesse programma são trechos de films nipponicos em gravações Columbia, fornecidos pela Secção Columbia do Nippak Shimbun, unico e exclusivo distribuidor daquellas gravações para o Brasil.

Missão Commercial Nipponica

A' proposito da proxima vinda de uma missão de industrias nipponicas ao Brasil, chefiada pelo sr. Hachisabro Hirao, membro-presidente da Companhia de Estaleiros Navaes de Kawasaki, e composta principalmente de delegados dos centros industriaes de Kobe e Osaka, a imprensa do Rio de Janeiro já expôz os provaveis fins dessa commissão.

A missão viria organizar e financiar, com o governo do Brasil, a elaboração e execução de uma marinha mercante nacional, construcções navaes, siderurgica, fabricacão de aviões automoveis e outros machinarios.

A commissão é composta de dezoito membros, entre elles Juzô Enami, sub-presidente da camara de Comercio e Industria de Osaka-Kobe e director da Sociedade Nippo-Brasileira; Takenosuke Ito, chefe da Commissão da Seda Artificial da Bolsa de Osaka e director da Companhia Ito; Takano Quai, representante do Nitsiú, que introduziu no Nippon, em 1933, o algodão paulista.

As credenciaes do novo embaixador nipponico

O presidente da Republica Brasileira recebeu no dia 22 do mez p. passado, ás 15,30 horas, em audiencia especial, o sr. Setsuzo Sawada, novo embaixador extraordinario e plenipotenciario do Nippon no Brasil, para a entrega de suas credenciaes.

A' sahida do embaixador, uma força militar prestou homenagens e as continencias de estylo.



- ▼ **流行品部**
 - 精選御婦人服(クレツベ編又は無地明顔色) 特 價 九八、〇〇〇
 - マント(スコツチ總裏高尙柄) 九八、〇〇〇
 - 夏提帽(最新流行各種) 二八、〇〇〇
 - 手袋(最新流行各種) 一三、〇〇〇より二八、〇〇〇
 - ▼ **化粧品部**
 - アグネ・デ・コロニア(一立) 二六、〇〇〇
 - 化粧石鹼(半打入箱) 九、四〇〇
 - 化粧石鹼(一箱) 九、五〇〇
 - カミゼツカ(巴里製一箱) 五、八〇〇
 - カミゼツカ(ジャヤシイ各色) 三、五〇〇
 - ▼ **男子用品部**
 - 浴衣(上等純毛、斬新柄) 特 價 提供 二二〇、〇〇〇
 - 洋服生地(上等純毛、斬新柄) 一七、五〇〇
 - カラ付カミイザ(ホブリン白) 三六、〇〇〇
 - ▼ **少年用品部**
 - 洋服(ジャケツトン仕立、純毛 六才乃至十四才向) 六五、〇〇〇
 - カミイザ(ホブリン、襟開き又はカラ付) 一三八、〇〇〇
 - 靴下(スボツ) 四九、〇〇〇
 - 幼児用外套(スコツチ地各色三才—六才) 二八、〇〇〇
 - ▼ **反物部**
 - フエルト帽子 六八、〇〇〇
 - 英國製上麻婦人服用流行各色米一、〇〇〇
 - ピーターパン(カンフライア新柄) 六、〇〇〇
 - マロケイン(外出着用絹巾百種) 一八、五〇〇
 - ▼ **タオル類**
 - 洗面用タオル(打三ミルの所) 二五、八〇〇
 - 入浴用タオル各型七、五〇〇より一五、ミル迄
 - ▼ **家庭用品部**
 - ガルフオ、フアカ、匙其他檢抜、バタ、皮むき別振き等々臺所用品(選り取り) 二、四〇〇
 - アイロン 特 價 三三、〇〇〇

ピマツ 半期大賣出し

今がチャンスでございます、皆様の御經濟を計るには吉例マツピン半期大賣出しを御利用下さいませ.....

Telephone 2-3113



Caixa Postal, 1391 S. Paulo